

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障害児通所支援事業所 シュシュ		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 26日		R8年 2月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 7名	(回答者数)	6名
○従業者評価実施期間	R8年 1月 26日		R8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 13名	(回答者数)	12名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムの充実	保育士を中心に活動内容について検討を行っている。 季節や個々に合わせた成長発達、年齢ごとに経験してほしい遊びなどを考慮し検討している。	職員が年齢による発達過程や、遊びの種類などの勉強会を行い、評価し検討できるようにしていった
2	多職種の意見を取り入れて療育活動を決定、実施しているので多角的な視点で検討できる	定期、不定期のミーティングで活動計画の詳細を決定している。活動のやりたいことなどをアンケート形式で聞き取るなど意見しやすい環境を整えている	看護師やリハ職から専門的な見解での意見を上げてもらい、より実施しやすい活動計画を詳細に上げるようにしていった
3	機能訓練担当指導員による専門的な支援の計画と実施	理学療法士、作業療法士がそれぞれの専門的な視点から支援計画書を読み解き、さらに詳細な支援計画を立てより専門的な支援の実施をできるようにしている	専門的支援実施計画を全職員が理解できるようにリハ職による勉強会の実施

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育園や幼稚園など同年代の子どもたちとの交流ができない	交流を実施してくれる協力園の選定 感染対策等の問題	職員のネットワークや人脈を広げる活動 二ーズの確認
2	職員間の情報の共有、共通理解が難しい	個別支援計画書や療育の方針についての周知、統一見解による理解が得られないことがある	職員会議やケース会議等で療育方針を意見をすり合わせながら決定していく 意見を上げやすい会議の実施
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		シユシユ		公表日		2026年 3月 7日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11	1		長期休暇中などに手狭に感じることがある	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	1 (無回答1)		日によって、送迎時間等に人手が足りなくなることがある	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12			使い方次第、構造化の必要性について周知、理解の足りない部分がある	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12		清潔保持は大切と言う意識付けができています		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12		カーテンやスクリーンなど活用し、プライバシーは守る事ができるよう工夫している		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	2 (△1)		業務改善の振り返りをしていることを認識していなかった	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	7		第三者がわからない 法人で決定することなので	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	1	法人のホームページで公表しています		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画(個別支援計画)を作成しているか。	12				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12		共通理解のための工夫がされている		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12		個人情報保護の観点から各自でカルテを見るように共有している	職種により理解度に差がある 週間ですることを共有してもいい ホワイトボードに張り出すなどしてもいい	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12				

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11	無回答 1		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	3	今日はどのように進めるか話せている シフト上朝礼だけでは足りないので情報収集の方法について検討し統一した	スタッフ各々日によって持ち場が変わるので必ずとは言えない
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	4	決まった時間ではないが共有に努めている 毎日ではないが定期的に振り返り共有している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	1	毎日の療育記録を、各個人担当で残している。 利用日には以前の記録を確認し把握するように徹底している	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	3	対象児がいらない為実施していないが、必要な時には実施できるよう準備はできている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		積極的に参加しています。就学への不安を少しでも減らしていけるように相談を受ける準備はできています	
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	6	定期的に児童発達支援センターの訪問がありその時に話している	実施についてわからない
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	10	前年度まで行っていたが今年度は子どもたちの様子を見て検討した結果実施していない。 年度ごとの子どもの様子、ニーズを見て判断していきたいと思っている 同法人の事業所との交流は行った	
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11	1		
31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	7	求める声があれば対応する予定		
保護者への説明等	32	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	2		
	33	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12			
	34	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12			
	35	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11	1	半年に一回面談を実施中。不定期でも要望があれば対応は可能な状態にしている	
	36	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	12		家族参加型のイベントや茶話会など開催できている	きょうだい児のイベントは未実施。運動会などの家族イベントで顔を合わせ交流している様子は見かける。ニーズに合わせて検討していきたい
	37	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	無回答 1		

	38	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	11	△1		
	39	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12			
	40	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12			
	41	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	7		
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	無回答1		
	43	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12			
	44	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12			
	45	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12			
	46	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	2	前年度より重大事故防止のための安全計画が作成されています	避難訓練は定期的な実践がされている
	47	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	1		
	48	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12		インシデントは翌日に共有し防止策について検討を行っている ヒヤリハット報告書は月に一度振り返りと防止策について検討している	
	49	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12		年に一回虐待防止マニュアルについての確認研修実施 年に二回自己評価の実施 月に一回身体拘束についてのミーティング実施 その他研修、勉強会を定期的実施している	
50	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12				